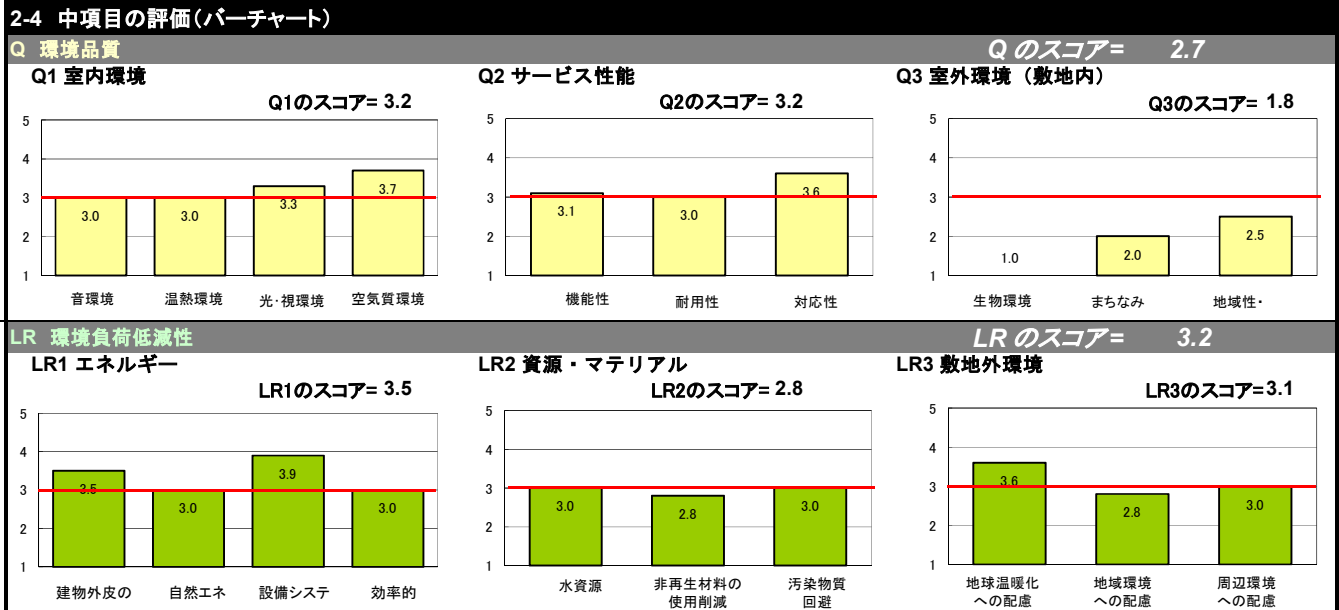
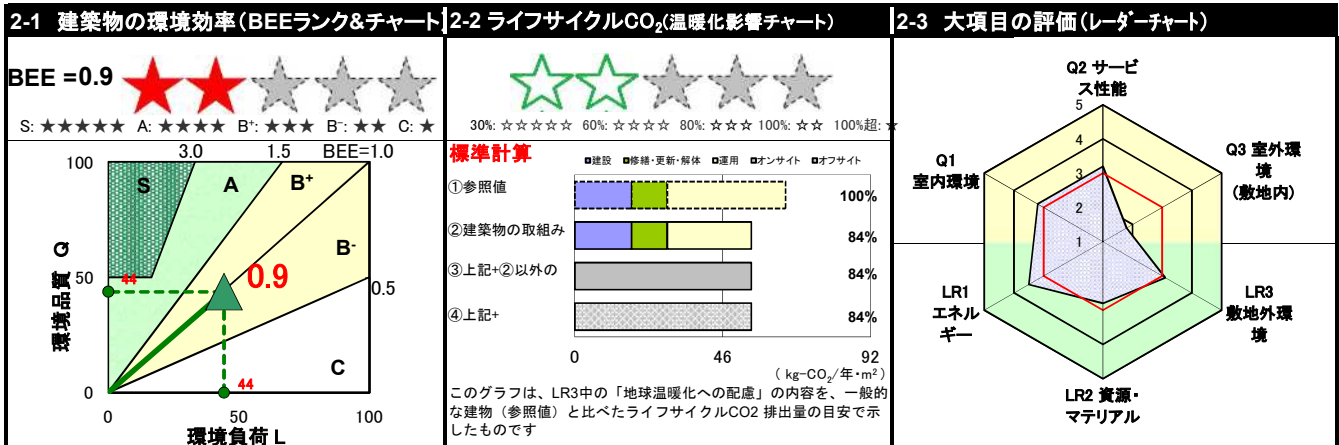


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 24003

建築物名称	(仮称)川崎区塩浜三丁目計画
建築主	株式会社ニューマシン 代表取締役社長 片桐 寛也
建築物の所在地	川崎市川崎区塩浜三丁目24番55
設計者氏名、建築士事務所名	松尾 肇 戸田ビルパートナーズ 株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,141.55㎡
用途	工場、事務所
構造	鉄骨造
階数	地上3階
工事完了年月	令和7年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要				1-2 外観	24003
建物名称	(仮称) 川崎市塩浜三丁目計画	階数	地上3F	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください	
建設地	神奈川県川崎市川崎区塩浜三丁目24番55	構造	S造		
用途地域	工業地域	平均居住人員	100 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2025年2月 竣工	評価の実施日	2024年3月29日		
敷地面積	1,401 m ²	作成者	松尾 肇		
建築面積	696 m ²	確認日	2024年3月29日		
延床面積	2,142 m ²	確認者	松尾 肇		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率46%	1.4/4.3	1.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比48%	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.8
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	昼光率4.8%	0.4/0.7	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.93である。 BEI=0.71である。	3.6/5.0	3.6
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避		2.7/4.7	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.2
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	ビニル床20年、壁クロス20年、天井PB30年、2種以上にBを使用、Eは使用なし	0.3/0.5	3.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上材が容易に分別可能である。	2.3/4.0	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	適切な量の駐車場を確保されている	0.2/0.4	2.4
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.6
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.93である。 BEI=0.71である。	3.6/5.0	3.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.7**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.93である。 BEI=0.71である。	3.6/5.0	3.6

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.7
Q1 室内環境							0.33		-	3.2
1 音環境						3.0	0.15		-	3.0
1.1 室内騒音レベル					—	3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音					—	3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能					—	3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能					—	3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					—	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					—	-	-	-	-	
1.3 吸音					—	3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御					—	3.0	0.50	-	-	
1 室温		W			—	3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能					—	3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性					—	3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御					—	3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式					—	3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.3	0.25	-	-	3.3
3.1 昼光利用					—	4.2	0.30	-	-	
1 昼光率					昼光率2.5%以上	5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口					—	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		W			—	3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策					—	3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		W			—	3.0	1.00	-	-	
3.3 照度					—	3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					—	3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						3.7	0.25	-	-	3.7
4.1 発生源対策					—	4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆使用	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気					—	3.6	0.30	-	-	
1 換気量					—	3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能					開口面積が居室の1/15以上	5.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮					—	3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理					—	3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視					—	3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御					—	3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.2
1 機能性						3.1	0.40	-	-	3.1
1.1 機能性・使いやすさ					—	3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性					—	3.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応					—	3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画					—	3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性					—	4.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観					天井高2.8m	4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース					自動販売機等の設置	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画					—	3.0	0.33	3.0	-	
1.3 維持管理					—	2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					—	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					—	2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振					—	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					—	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					—	3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			R		—	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			R		—	3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R		ビニル床20年、壁クロス20年、天井PB30年	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			R		—	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			R		2種以上にBを使用、Eは使用なし	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			R		—	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					—	2.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備					—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					—	1.0	0.20	-	-	
3 電気設備					—	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法					—	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備					—	2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性								3.6	0.30	-	-	3.6								
	3.1 空間のゆとり								4.0	0.30	-	-									
	1 階高のゆとり							階高3.8m	4.0	0.60	-	-									
	2 空間の形状・自由さ							工場:0.22、事務所:0.23	4.0	0.40	-	-									
	3.2 荷重のゆとり							工場:12000N/㎡、事務所:2900N/㎡	4.3	0.30	-	-									
	3.3 設備の更新性								3.0	0.40	-	-									
	1 空調配管の更新性							—	3.0	0.20	-	-									
	2 給排水管の更新性							—	3.0	0.20	-	-									
	3 電気配線の更新性							—	3.0	0.10	-	-									
	4 通信配線の更新性							—	3.0	0.10	-	-									
5 設備機器の更新性							—	3.0	0.20	-	-										
6 バックアップスペースの確保							—	3.0	0.20	-	-										
Q3 室外環境(敷地内)																—	0.37	-	-	1.8	
1	生物環境の保全と創出				G	W		H	—	1.0	0.30	-	-	1.0							
2	まちなみ・景観への配慮				G				—	2.0	0.40	-	-	2.0							
3	地域性・アメニティへの配慮								2.5	0.30	-	-	2.5								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								—	3.0	0.50	-	-									
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H	—	2.0	0.50	-	-									
LR 建築物の環境負荷低減性																	-	-	-	3.2	
LR1 エネルギー																	—	0.40	-	-	3.5
1	建物外皮の熱負荷抑制					W		H	BPI=0.93	3.5	0.20	-	-	3.5							
2	自然エネルギー利用					W		H	—	3.0	0.10	-	-	3.0							
3	設備システムの高効率化					W		H	BEI=0.71	3.9	0.50	-	-	3.9							
4	効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0								
集合住宅以外の評価								3.0	1.00	-	-										
4.1 モニタリング					W		H	—	3.0	0.50	-	-									
4.2 運用管理体制					W		H	—	3.0	0.50	-	-									
集合住宅の評価								-	-	-	-										
4.1 モニタリング					W		H	—	-	-	-	-									
4.2 運用管理体制					W		H	—	-	-	-	-									
LR2 資源・マテリアル																	—	0.30	-	-	2.8
1	水資源保護					W		R	—	3.0	0.20	-	-	3.0							
1.1 節水								—	3.0	0.40	-	-									
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								—	3.0	0.60	-	-									
1 雨水利用システム導入の有無								—	3.0	0.70	-	-									
2 雑排水等利用システム導入の有無								—	3.0	0.30	-	-									
2	非再生性資源の使用量削減								2.8	0.60	-	-	2.8								
2.1 材料使用量の削減					W		R	—	2.0	0.10	-	-									
2.2 既存建築躯体等の継続使用					W		R	—	3.0	0.20	-	-									
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W		R	—	3.0	0.20	-	-									
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W		R	—	1.0	0.20	-	-									
2.5 持続可能な森林から産出された木材					W		R	—	2.0	0.10	-	-									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					W		R	躯体と仕上材が容易に分別可能である。	5.0	0.20	-	-									
3	汚染物質含有材料の使用回避								3.0	0.20	-	-	3.0								
3.1 有害物質を含まない材料の使用								—	3.0	0.30	-	-									
3.2 フロン・ハロンの回避								—	3.0	0.70	-	-									
1 消火剤					W			—	-	-	-	-									
2 発泡剤(断熱材等)					W			—	3.0	0.50	-	-									
3 冷媒					W			—	3.0	0.50	-	-									
LR3 敷地外環境																	—	0.30	-	-	3.1
1	地球温暖化への配慮					W			ライフサイクルCO2排出率80%	3.6	0.33	-	-	3.6							
2	地域環境への配慮								2.8	0.33	-	-	2.8								
2.1 大気汚染防止								—	3.0	0.25	-	-									
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W		H	—	3.0	0.50	-	-									
2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.2	0.25	-	-										
1 雨水排水負荷低減							R	—	3.0	0.25	-	-									
2 汚水処理負荷抑制							R	—	3.0	0.25	-	-									
3 交通負荷抑制							R	—	1.0	0.25	-	-									
4 廃棄物処理負荷抑制							R	—	2.0	0.25	-	-									
3	周辺環境への配慮								3.0	0.33	-	-	3.0								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								—	3.0	0.40	-	-									
1 騒音								—	3.0	1.00	-	-									
2 振動								—	-	-	-	-									
3 悪臭								—	-	-	-	-									
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制								3.0	0.40	-	-										
1 風害の抑制								—	3.0	0.70	-	-									
2 砂塵の抑制								1.0	-	-	-	-									
3 日照阻害の抑制								—	3.0	0.30	-	-									
3.3 光害の抑制								3.0	0.20	-	-										
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								—	3.0	0.70	-	-									
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								—	3.0	0.30	-	-									

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	2.0		-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-						
2.4.2 給排水・衛生設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-						
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-	-						
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	2.0		-	-	-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	2.0		2.0	-	-	-	-	-	-						
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	-	1.0	1.0	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0		-	1.0	-	-	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-										
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	-	2.0	3.0	-	-	-	1.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-	-						
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムS(-)	窓の日射熱取得率(η)														
U値(W/m2K)	窓システム	屋根								外壁				床	
住戸部システムU値										ηAC				ηAH	
屋光率	4.8%														
自然換気有効開口	0.0%														

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収容性

執務スペース	6.0㎡/人	病床	8.0㎡/床	シングル		15.0㎡ツイン	22.0㎡
--------	--------	----	--------	------	--	----------	-------

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容	0.0 VA/㎡
--------	----------

1.2.1 広さ感・景観

天井高	2.8 m
-----	-------

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%
------------	------	---------	------

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数	25 年
--------	------

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔	20 年
--------	------

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔	20 年
--------	------

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔	10 年
--------	------

3.1.1 階高のゆとり

階高	3.8 m
----	-------

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	23.0%
-------	-------

3.2 荷重のゆとり

床荷重	- N/㎡
-----	-------

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	0%	建物緑化指数	0%
--------	----	--------	----

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率	46%	水平投影面積率	0%	地表面対策面積率	0%	舗装面積率	0%
-----	-----	---------	----	----------	----	-------	----

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	0.93	熱等性能等級	対象外 相当
----------------------	------	--------	--------

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	80.0%	採光を満たす住戸数	80.0%
------------	---------	-----------	-------	-----------	-------

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI _m	非住宅 0.71	住宅	-	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW
----------------------	----------	----	---	-----	------	------	------	-----	------

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%
-------	------

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
-------	---	---------	---	-------------	---

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率	0.0%
------	------

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数	()	地球温暖化係数(GWP)	()
----------	-----	--------------	-----

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数	0	地球温暖化係数(GWP)	1430
----------	---	--------------	------

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数	0	地球温暖化係数(GWP)	8
----------	---	--------------	---

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	48%	棟間隔指標Rw	0.60				
地表面対策面積率	0.0%	屋根面対策面積率	#DIV/0!	外壁面対策面積率	#DIV/0!		
見付面積Sb	187㎡	越風向と直交する最大敷地幅Ws	28.46 m	基準高さHb	13.6 m		
緑地	㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡